

搾乳ロボット導入による省力化

【ポイント】 搾乳ロボット導入による労働負担の軽減により家族経営による規模拡大が可能に！

【経営概要】

- ・所在地：宮崎県
- ・経営体：酪農経営
- ・飼養頭数：経産牛：67頭（搾乳牛：55頭）、育成牛30頭
- ・従事者数：4名（経営主夫婦、両親）
- ・飼料作付面積：飼料畑11ha



【導入のきっかけ】

○将来を見据え、子供たちが見て、やりたいと思える酪農経営実現のための先行投資と考え、フリーストール牛舎の新設と搾乳ロボットの導入を決意。

※導入前の飼養方式：つなぎ牛舎（搾乳牛 36頭）

○牛舎：フリーストール牛舎 120頭規模（H29.3月～）

○搾乳ロボット：LELY社製（オランダ）

○貯留槽1棟、堆肥舎1棟



【非常時の備え】

○停電対策として、トラクターを動力とする発電機を導入。

【導入した効果】

○搾乳ロボットの導入により、これまで朝夕1日2回ミルカーにより家族総出で搾乳していた労働時間（約2時間×2回）の削減が図られ、**特に両親への負担が解消されたことにより、家族経営による規模拡大が可能に。**

○飼養規模の拡大目標（搾乳牛）

・**50頭（H29） → 100頭（H34）（増頭中）**

○1日1頭当たり平均乳量も増加

・フリーストール牛舎による快適な環境と搾乳ロボットにより、牛が搾りたいタイミングで昼夜問わず搾乳が可能に。**約30kg → 約34kg（1割増）**

○牛を観る時間が増えるとともに、搾乳ロボットの乳質・乳量データの他、反芻回数や活動量などのデータを有効活用することで、これまで以上に**牛群の健康管理が可能に。**

※今後のICTの導入予定

・分娩監視装置、エサ寄せロボット